

遠洋マグロはえ縄漁船・新造船「第三明神丸」が出港

風薫る 4 月 6 日、快晴の気仙沼港から、鈴幸漁業株式会社の新造船「第三明神丸」が、インド洋に向けて出港した。出航に先立ち、新造船のお披露目は 2 月 27 日に気仙沼港で行われ、約 300 人の関係者が集まる中、お祝いの餅まきが振る舞われると、岸壁では歓声が上がった。

「第三明神丸」は、操業で釣り上げて解体処理をしたマグロなどの漁獲物を約 350 トン格納できる冷凍設備を持ち、省エネ性能に優れた新世代舵システム「ゲートラダー」を漁船として世界で初搭載した。ゲートラダーとは、舵をプロペラの後方ではなく、両側に配置し、特殊な形状をした舵自体が推力を生み出すことで、実船計測において 14%の省エネ性能を実現している、新しい発想に基づいて設計された新型舵システム。

また、若い人材の確保に向け、高速のネットサービス「スターリンク」を導入し、遠く離れた海域でも、家族や友達と連絡を取り合えるという安心感を与えることで、若い船員の定着率が高くなることが期待されている。

出港時には、乗組員の家族や関係者約 200 人が見送りに駆け付け、出港のあいさつで 伊藤栄喜漁労長が「今日は休日にも関わらず沢山の見送りに感謝します。乗組員全員で力を合わせ約 1 年間、頑張ってきます」と、見送る人たちに感謝を伝えるとともに、安全航海・大漁満船に向けての意気込みを語り、汽笛が港に響き渡ると、船は一路、インド洋に向けて出航した。

「海員だより」